

12月「O Tannenbaum」 アントニア・シュルト

1.

最近、少し暗いテーマが多かったような気がして、「光のお祭り」とも呼ばれているクリスマスがせっかく近づいているので、今回はシーズンに合わせた明るい投稿を書いてみようと思いました。

皆さんご存知かと思いますが、クリスマスに欠かせないものの一つがクリスマスツリーです。現在は、世界中でクリスマスを本気でお祝いしなくてもクリスマスツリーを飾る人が少なくありません。クリスマスは、イエス・クリストの降誕祭としてキリスト教の重要な祭りであるため、キリスト教を信仰しなければ、なぜクリスマスツリーを飾りますかと少し批判が入った声で言う人もいるかもしれませんが、実はクリスマスツリーはクリスマスとはおよそ無関係です。というのもキリスト教を信仰しても、信仰しなくても飾っても良いでしょうという意味だからです。クリスマスツリーの原型は北欧に住んでいた古代ゲルマン民族の「ユール」という冬至の祭りで使われていた「モミの木」です。



12月「O Tannenbaum」 アントニア・シュルト

日が短い冬の暗い闇の中、生命が生き続けていることを示すために、冬でも葉が枯らずにいる、生命のシンボルでもある常緑樹を飾ることになりました。「生命の象徴」というところが私にとって意味深く、一番大事なところだと言えるかもしれません。家の中、居間に本物の木を飾ることで、まるで自然を部屋までもって行けました。近年は、アメリカやイギリスの影響が大きく、昔と違ってドイツ人も12月24日よりもずっと早くにツリーを飾るようになってきています。しかし、あまり早くにツリーを飾ってしまうとクリスマス当日までもたないんです。生命がなくなったクリスマスツリーは、その象徴的な意味も失ってしまうと思います。クリスマスツリーに関する習慣は家庭によってそれぞれですが、私の家族の場合は、12月24日の昼間に居間にツリーを立て、暗くなってから、父がツリーの置かれた部屋の扉を閉めて、一人で飾り付けをします。そのやり方の魅力は、24日の夜にそのドアがやっと開いた瞬間に本物のろうそくできらきら輝いた木の華美が毎回言いえないほどの感動でした。こういう背景があるため、日本にいても守っているクリスマスツリーに関する鉄則があります。

- ツリーが本物じゃないとダメ
- ろうそくが本物じゃないとダメ
- 当日前に飾ったらダメ

色々な人に聞いてみて、今年は本物のモミの木が手に入れそうなので、私のクリスマスが救われました。